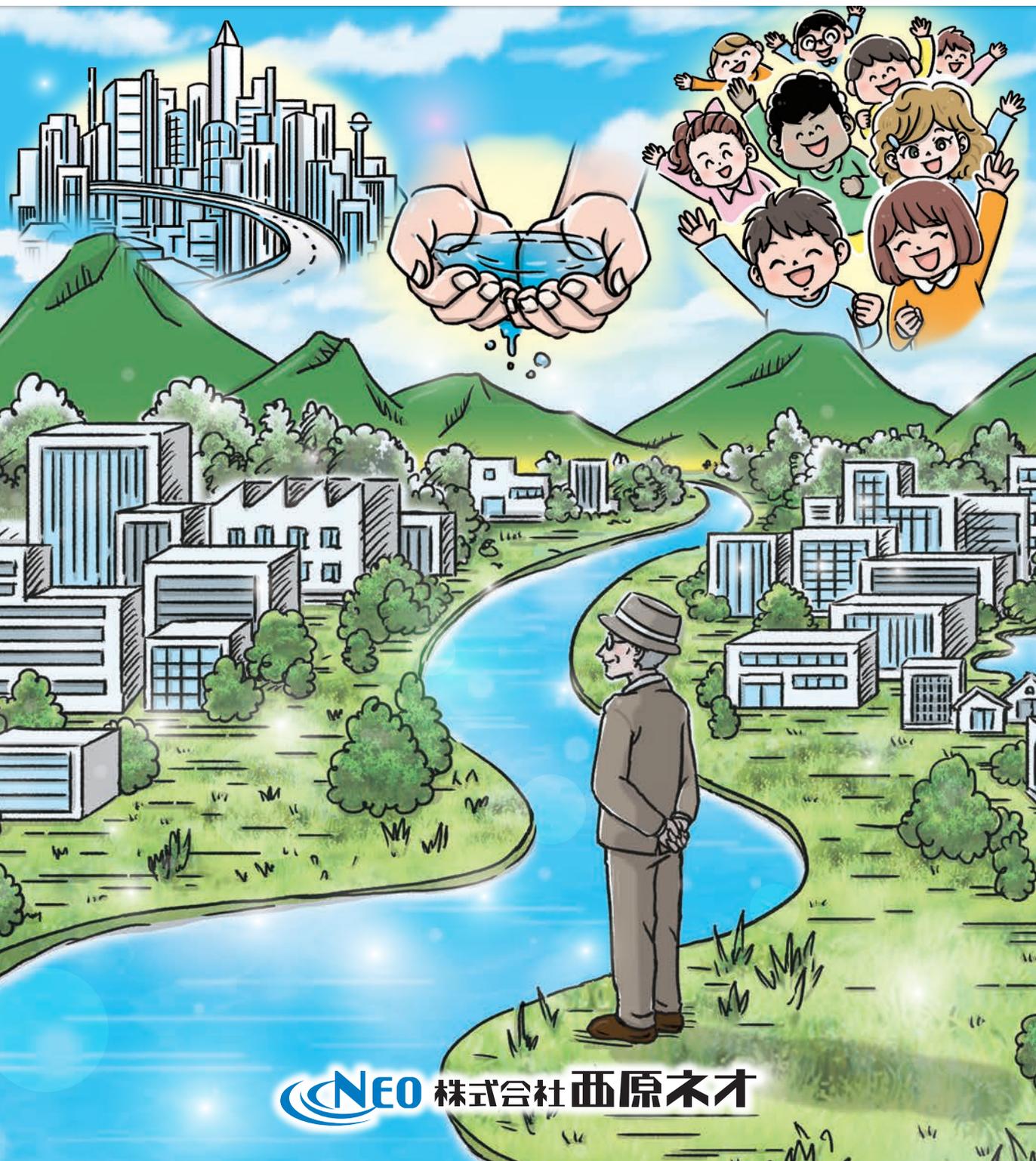


『水処理』という仕事

創業者「西原脩三編」





NEO Spirits

～自然から得たものは、自然に返す～

「水の西原」の創業者、西原脩三は明治16年（一八八三年）8月25日、東京にその生を受け、大正6年（一九一七年）当時としては他にない、衛生工事を専門に行う会社を設立しました。彼は、まさに「水処理の仕事」に使命感を持ち、同時に、常に先を見据え、循環型社会の実現に向けて走り続けた先駆者でした。現在、株式会社西原ネオは、この創業者の神髄である、生物処理による汚水の浄化をコア事業としつつ、近年では物理化学処理にも注力し、その事業範囲を広げつつ、水環境の改善へ一翼を担っています。

この機会に、明治～大正～昭和という戦争や災害、経済・社会のめまぐるしい変化の時代の中で生き、走り、追いつけた創業者「西原脩三」の『水処理の仕事』への情熱や誇りを感じていただければ嬉しく思います。

そして、その意志は、わたしたち西原ネオの社員が受け継ぎ、

これからも「水」をテーマとした循環型社会の実現に生かし続けてまいります。

水のソリューション

NEO 株式会社 西原ネオ



僕を慕ってくれる
後輩もできた

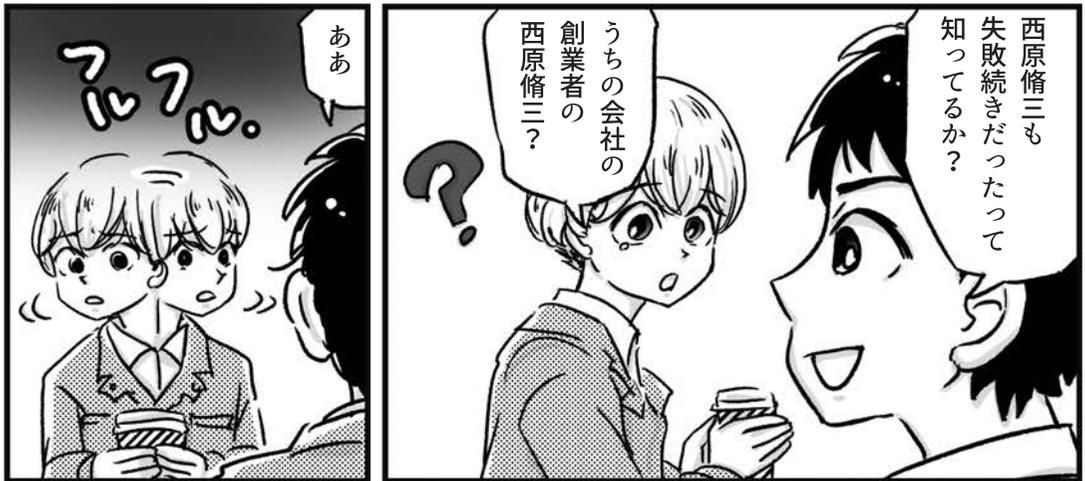
僕の名前は水野タクミ
ここ、西原ネオに
就職して丸3年。

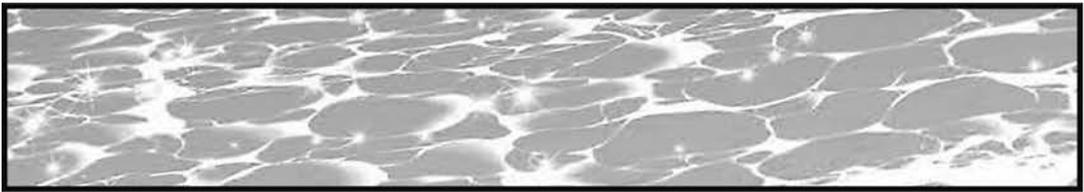


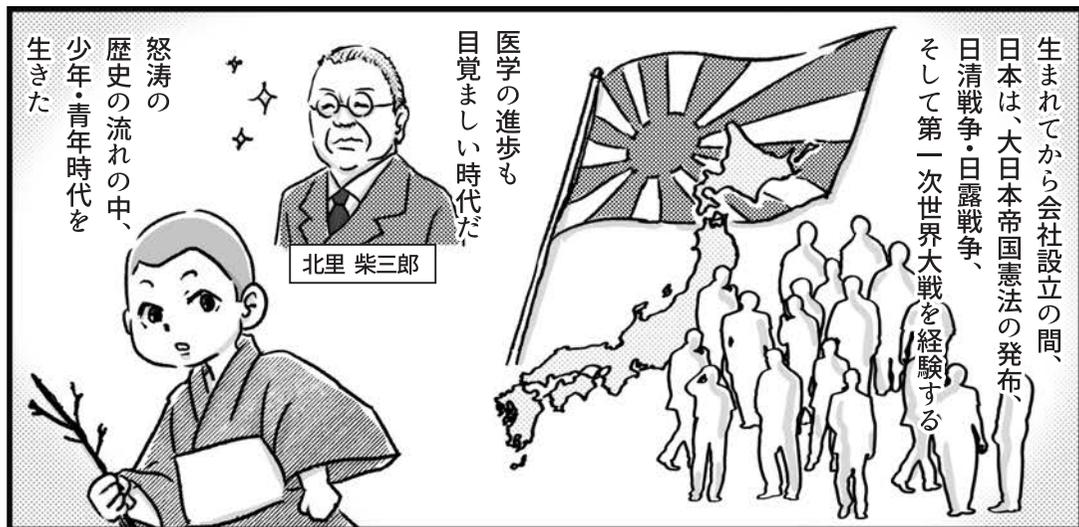
何
言ってるんだよ
たった一度の失敗ぐらいで
大袈裟だな

俺のしてることに
何の価値があるんですかね
失敗してばかりだ

昼休みに
後輩の相談に
乗ることだつてある
先輩、
ちよつと
いいですか？







生まれてから会社設立の間、日本は、大日本帝国憲法の発布、日清戦争・日露戦争、そして第一次世界大戦を経験する

医学の進歩も目覚ましい時代だ

北里 柴三郎

怒涛の歴史の流れの中、少年・青年時代を



西原家は御家人の下級武士の家柄で、明治維新以降、虎ノ門で小さな印刷所を経営していたのだが、脩三が小学校を卒業する頃、金策の未購入した機械の大破によって絶望と借金だけが残った。

当然、中学校など行けない。再起のため家業を手伝いながら、工手学校という職業訓練学校で土木学を学び、16歳で卒業した。

土木学



脩三は、その後官吏として仕事に就いた。

日本という国だけの知恵では一流の工学知識は身に付けられない！英語力を身に付けなければ！

そう強く感じた脩三は、働きながら教会の英語学校に通ったり夜間、東京外国語学校に通うなど英語を猛勉強した。

その後、役所の技師として
水道工事やダム等の構築工事にも携わった。



個人の大邸宅の衛生工事と浄化装置の設置工事や
東京海上第一期ビルディングの大型浄化そのの
施工にも携わり、経験と知識を積んでいった。



その中で、官界で活躍するには
限界があると感じていた。

このままでは
ダメだ！
実業畑だ！



「住宅の衛生工事はどうあるべきか」
脩三は働きながら
図書館に通い、
海外の文献を読みあさり、
衛生設備の重要性を
見出していた。

そして大正6年(1917年)、
当時としては他にない、
衛生工事を専門に行う会社
(西原衛生工業所)
を設立した。
ベンチャー企業の
先駆けであった。

西原脩三、34歳の頃だった。





関東大震災の年
大正12年(1923年)4月
脩三は家族と共に
馬込に移住した。



英語の重要性とか
先見の明があるんだなあ

僕は英語が苦手だから
耳が痛いよ!



自然が豊かだな

うっ!

アヘン!



都会と違って
住居は
ほとんどないな

田園風景が
広がってますねえ

妻のマスと娘たち



しかし、居住者にとっては
悪夢であつた。

家にまで
ハエが!

匂いが!

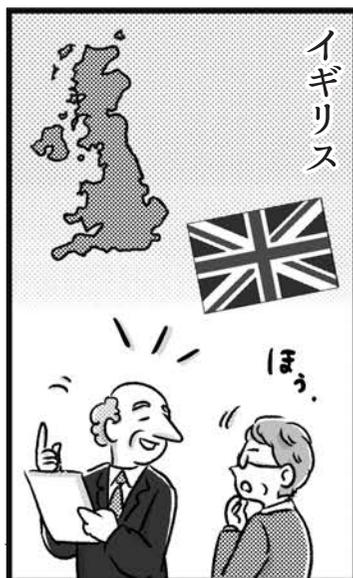
クサイ!



都市から運び込まれたし尿。
農家にとっては貴重な肥料だった。



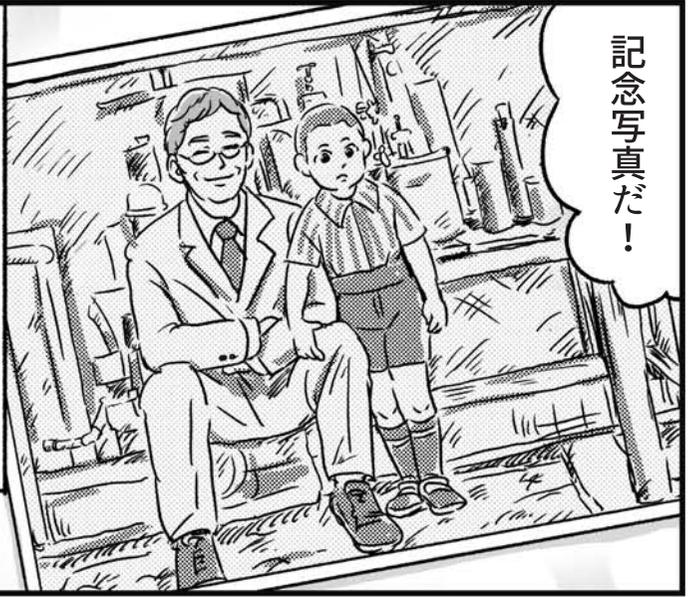








記念写真だ！



この写真は、
日本で初めて、汲み取りし尿の
消化処理のマニユアルが確立した
記念すべきものだった。

西原家の小さな小屋で進められた
「し尿消化処理実験」は
実験開始から12年を経て、
ついに成功したのだ。

12年……！



本当すごいよな
情熱が

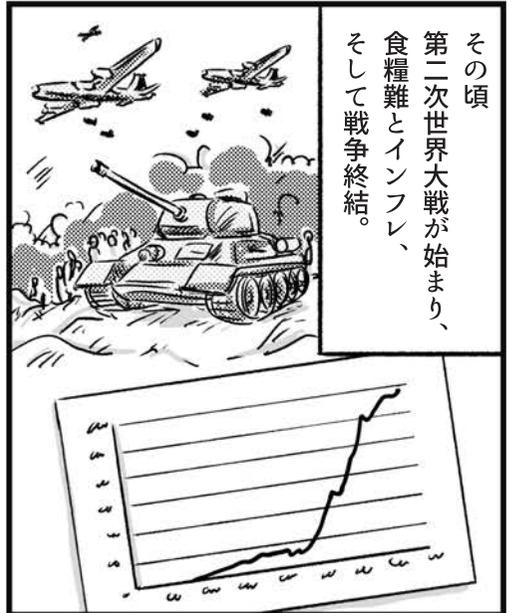
「汲み取りし尿の
消化処理マニユアル」は
社会に受け入れられなかった



ガーン！

その頃

第二次世界大戦が始まり、
食糧難とインフレ、
そして戦争終結。



時代はどんどん移り変わっていく。
そんな中

ええっ！
GHQからご依頼が？

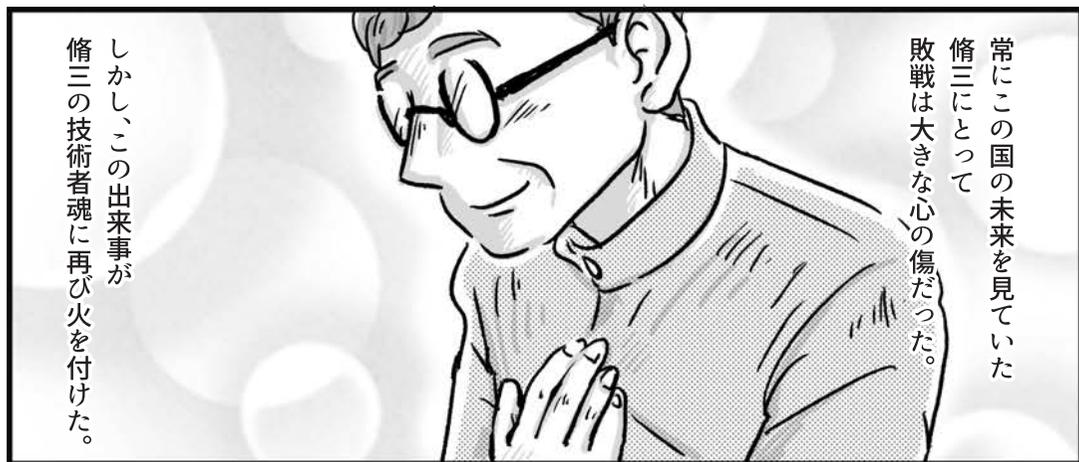






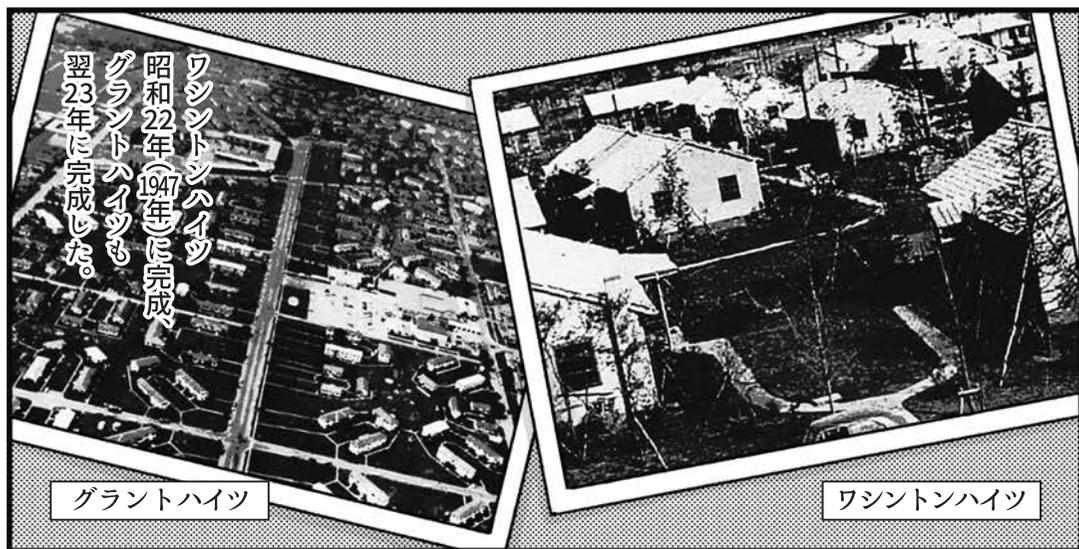
戦前から自分の実験報告を
英訳し、アメリカに送り続けていた。
また、戦前から欧米視察をしたりなど
そうした脩三の奮闘は、
見ている人は見てくれていたのだ。

また、GHQは
工事に必要な資材集めにも
協力的だった。また、
軍から借りた車で
戦時中に施工していた
各現場から配管材料を
集めて回ることができた。



常にこの国の未来を見ていた
脩三にとつて
敗戦は大きな心の傷だった。

しかし、この出来事が
脩三の技術者魂に再び火を付けた。



ワシントンハイツ
昭和22年(1947年)に完成
グラントハイツも
翌23年に完成した。

グラントハイツ

ワシントンハイツ



そして、
昭和25年(1950年)
東京都庁



その後、
昭和23年(1948年)
西原衛生工業所を株式会社に改組。



なんとか
うちの浄化槽を
認可していただけない
でしょうか



その件はお宅の担当者に
既に伝えてあります。
手練りの混泥土管では
認可できませんのです。

そうね、例えば
日本ヒューム管会社と
同等以上の品を使うなら
考慮しましょう。



悪臭が酷くて
とても文化的な
生活とはいえない。

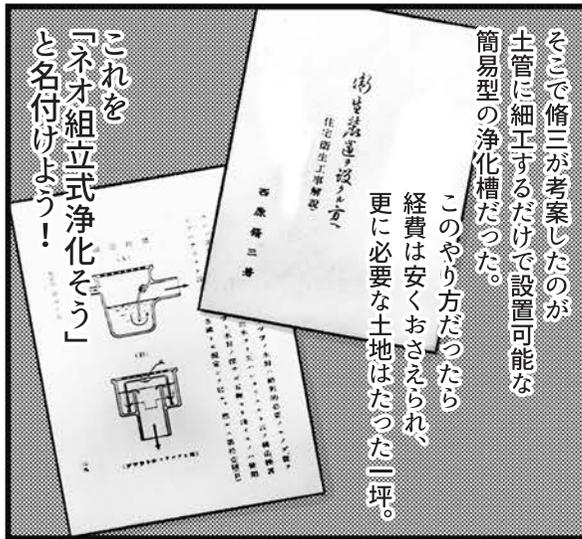
戦後になっても
日本の建物の大半は
汲み取り式のトイレ。

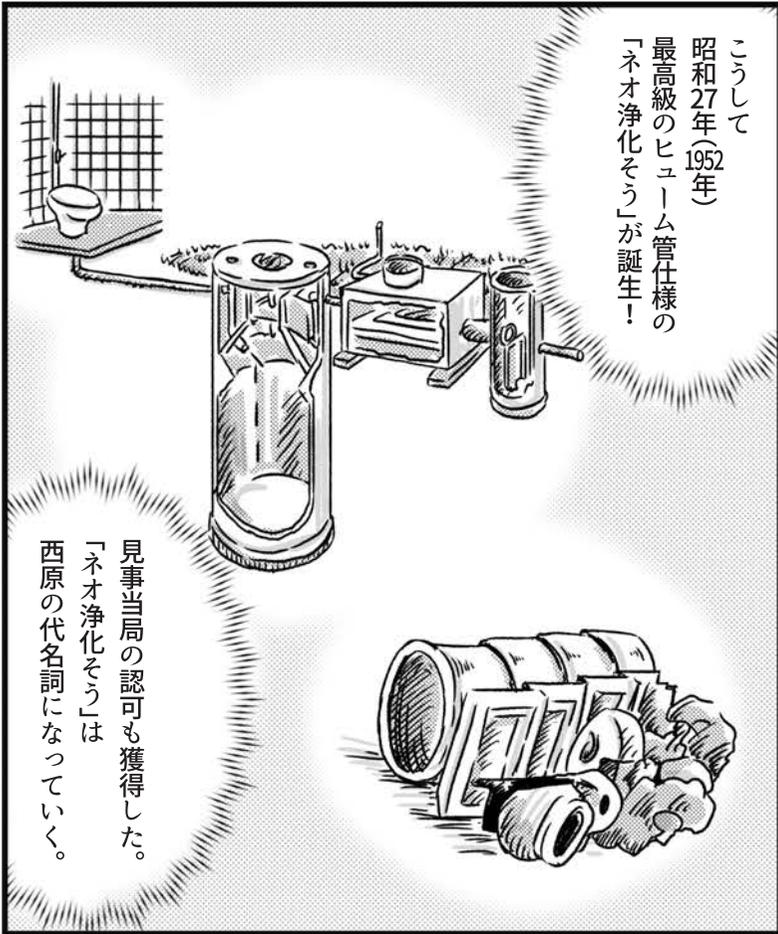
水洗トイレは必要だが、
欧米のような下水道の整備は
夢のまた夢か…。



はあ

トボ



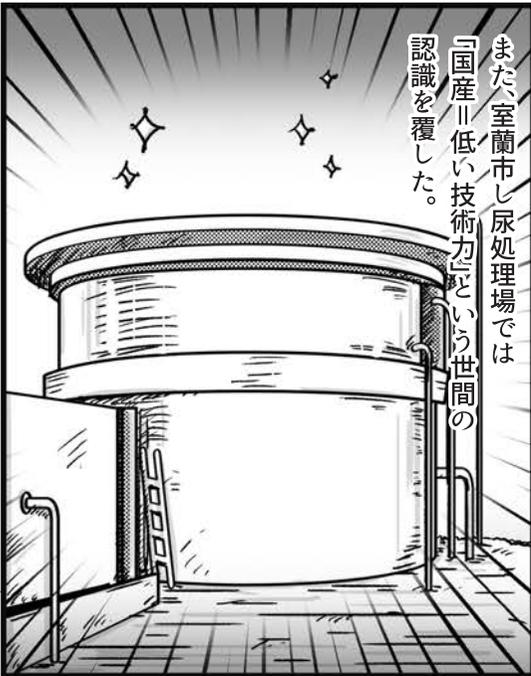


こうして
昭和27年(1952年)
最高級のヒューム管仕様の
「ネオ浄化そう」が誕生!

見事当局の認可も獲得した。
「ネオ浄化そう」は
西原の代名詞になっていく。



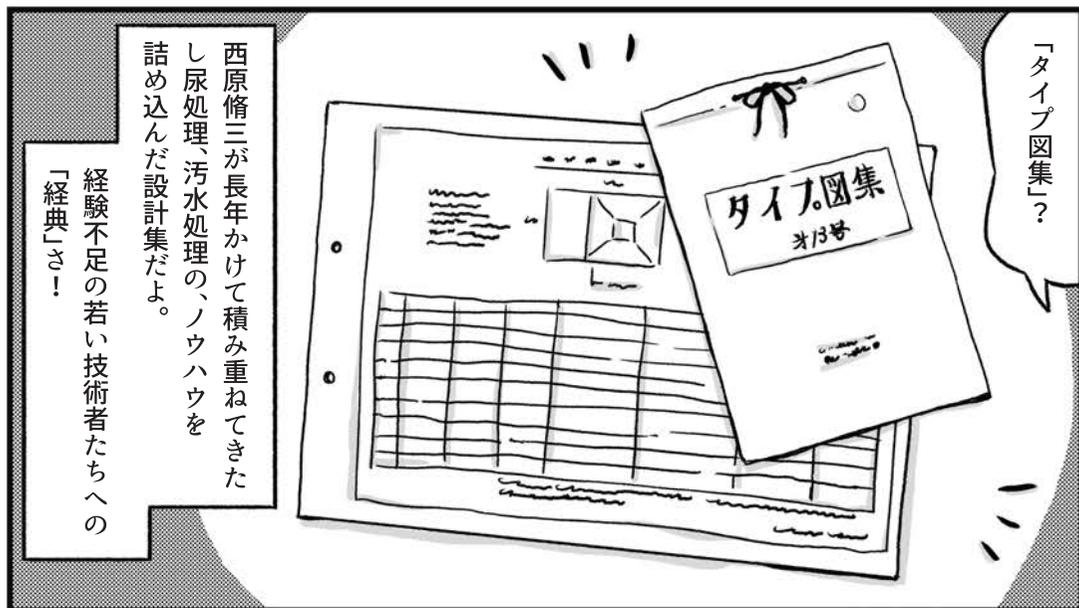
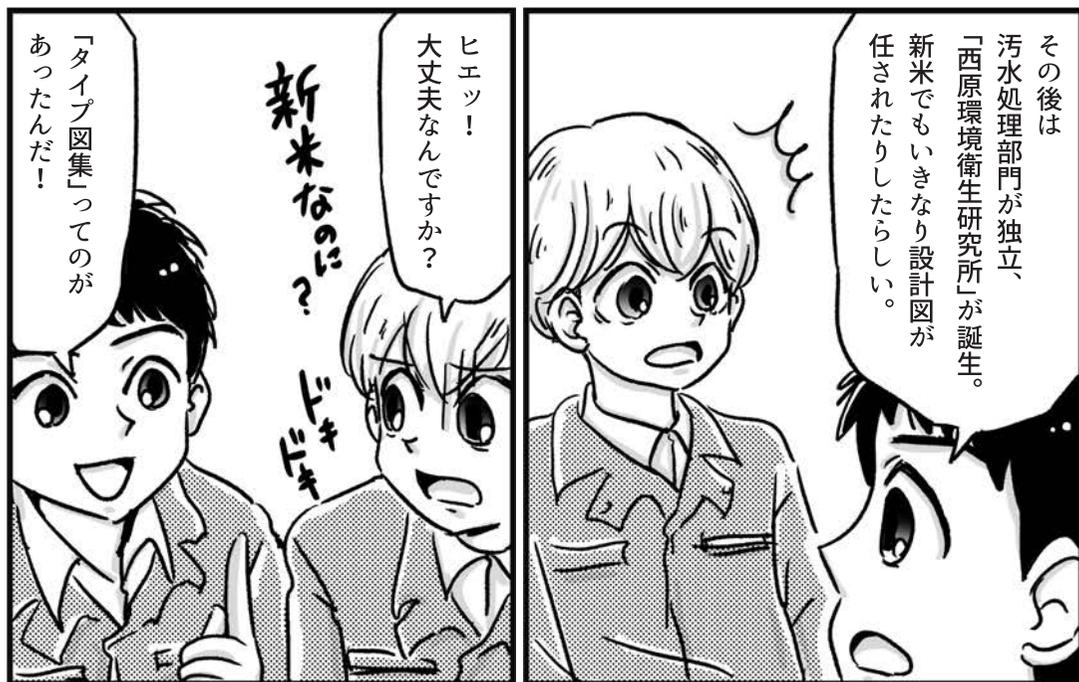
価格は
可能な限り抑えましょう。
ありがとうございます!

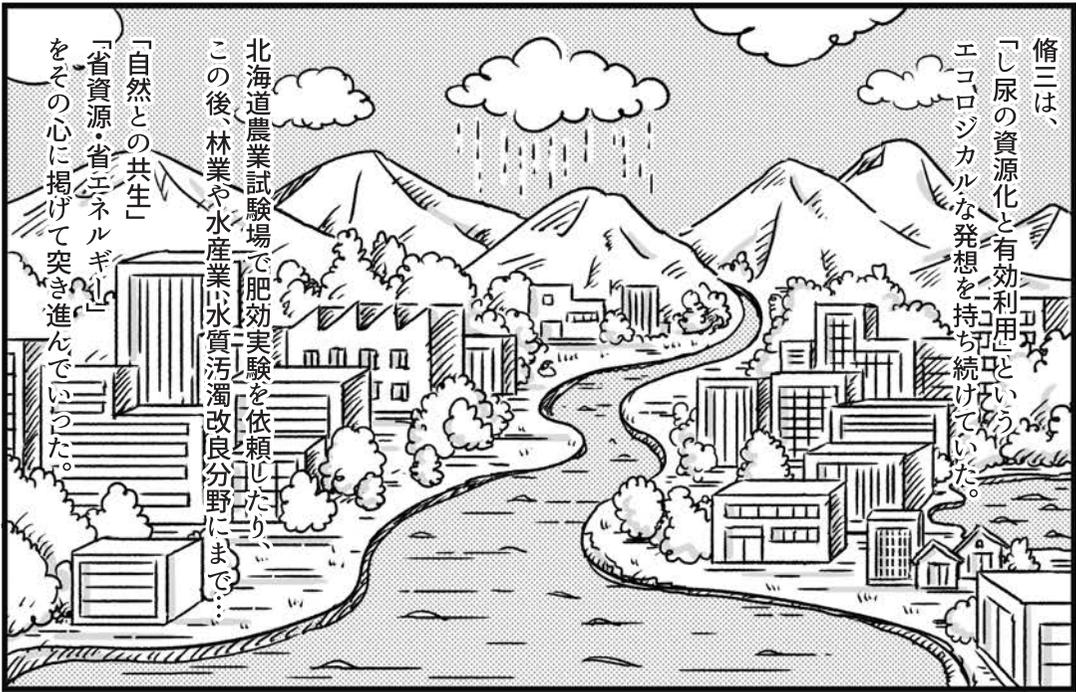


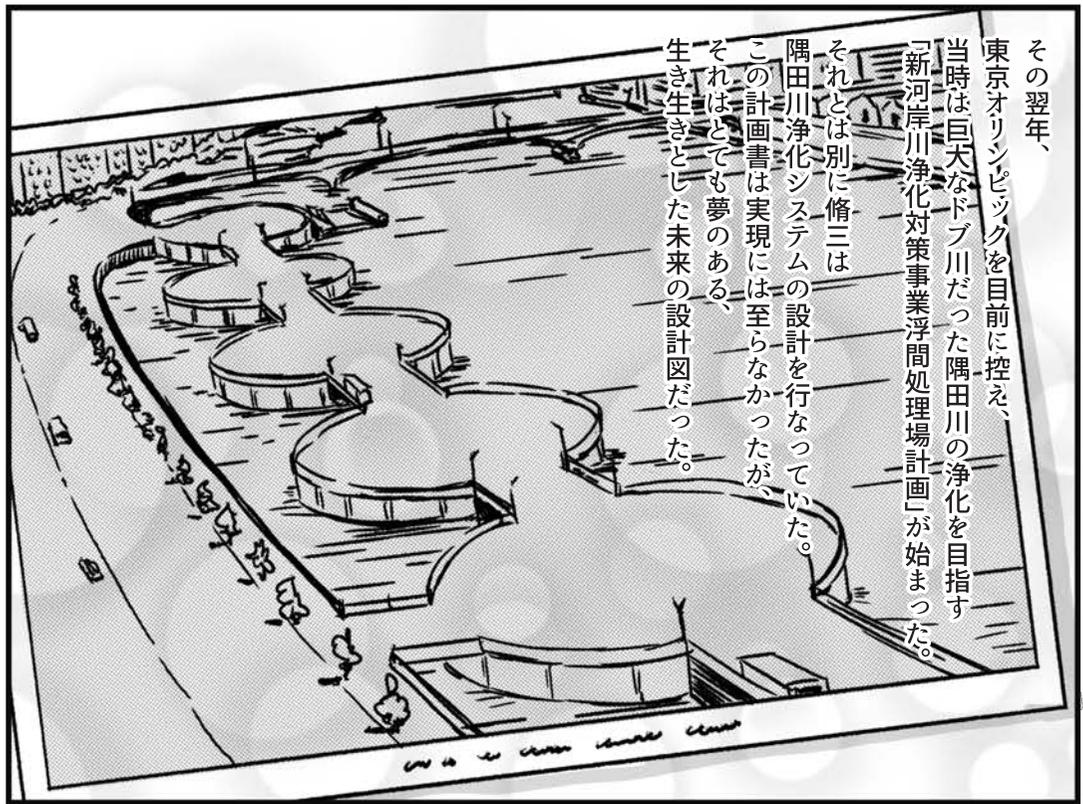
また、室蘭市し尿処理場では
「国産」低い技術力」といふ世間の
認識を覆した。



西原の快進撃は続く。
高崎市城南下水処理場「2階槽」高速散水床」は
戦後初の下水処理場建設で注目を浴びた。







その翌年、東京オリシピックを目前に控え、当時は巨大なドブ川だった隅田川の浄化を目指す「新河岸川浄化対策事業浮間処理場計画」が始まった。それとは別に脩三は隅田川浄化システムの設計を行っていた。この計画書は実現には至らなかったが、それはとても夢のある、生き生きとした未来の設計図だった。



脩三は、世界でナンバー・ワンと目されるハーバード大学の衛生工学者、フェア教授からも一目置かれていた。

「自然から得たものはまた元の形にして自然に戻す」というエコロジカルな視点を評価するフェア教授に信頼を寄せていた。

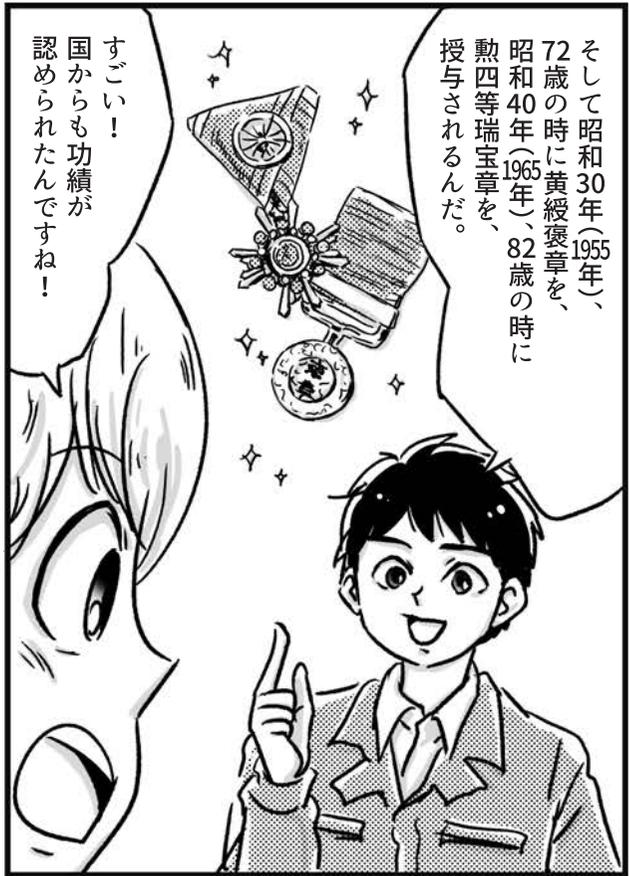
立場や国籍の違いはあっても、互いの研鑽の成果を報告しあい、友情を深めた。



おおー！

超メタ自動車

昭和48年(1973年)にはNHKの番組「あすへの記録『走るメタン自動車』」で、西原脩三たちが汚水(汚泥)処理で発生するメタンガスで自動車を走らせた取り組みが紹介されたりしたんだよ



すごい！
国からも功績が認められたんですね！

そして昭和30年(1955年)、72歳の時に黄綬褒章を、昭和40年(1965年)、82歳の時に勲四等瑞宝章を、授与されるんだ。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは「持続可能な開発目標」。

2030年までに、世界中の環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を世界のみんなで解決しようという計画・目標。
※ここでいう「持続可能な」とは、人間の活動が自然環境に悪影響を与えず、その活動を維持できるという意味。

あぁ！
確かに！

それに「自然から得たものは、また元の形にして自然に返す」…。それは今のSDGsの考えと同じだ



「日本のため、
世界のため。」

脩三は
この言葉を、
よく口にしていたそうだ。



今の時代にもぴったり
当てはまるなんてスゴイです！
本当に先見の明が
ある方だったんだなあ



なんか、
自分の悩みなんて
すごく小さいなと
思えてきました…
なんか恥ずかしいです

まあまあ！



うーん、
課題は山積みですね

こんな大きな課題に
取り組める人間
なかなか
居ないだろうなあ



西原脩三の目には
どんな未来が
見えていたのだろうか



僕もだよ！

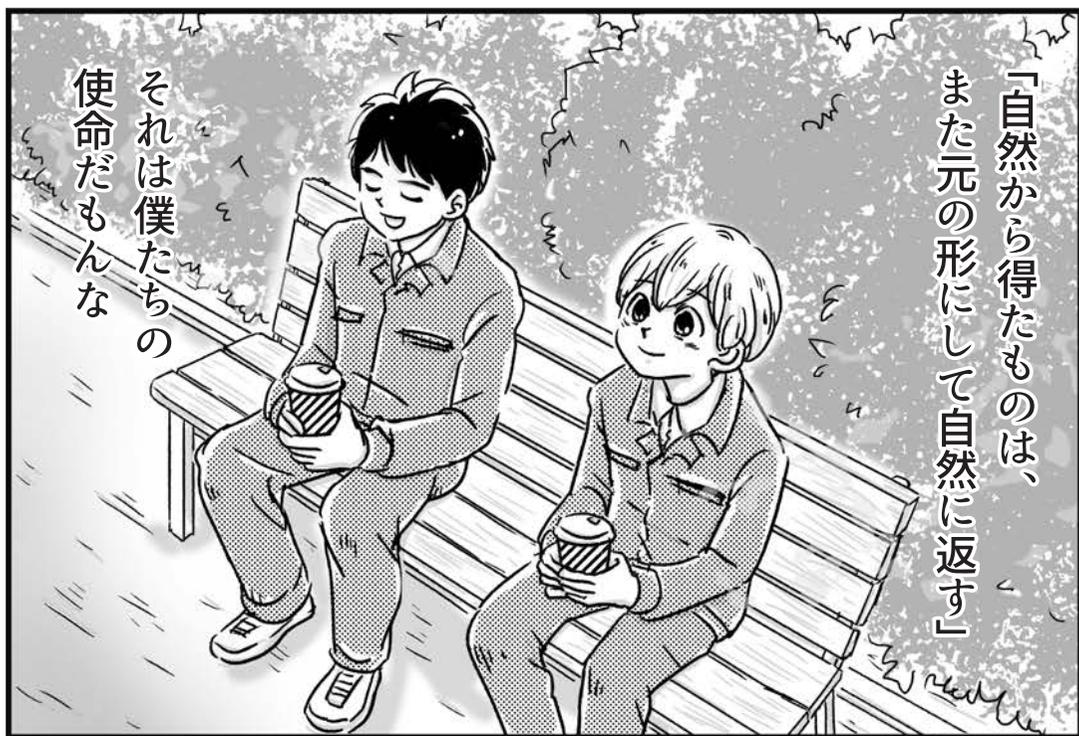


西原脩三は、
自分の為だけじゃなく、
「日本のため、世界のため。」
そう思えたから、
走り続けて来たんでしょね。

決めた！
創業者の想いを
つないでいくために
俺、仕事がんばります！



西原ネオは
創業者・西原脩三の意思を
現在でもずっと引き継いでいるんだ。



「自然から得たものは、
また元の形にして自然に返す」

それは僕たちの
使命だもんな

History

西原グループ創業者

西原脩三の生涯



S.10年、自宅庭の実験装置前で成功を記念して長男と写真撮影



現場(室蘭)で促進消化法を語る

和暦	西暦	年齢	事象	出来事
明治 16	1883	0	8月25日、日比谷内幸町にて父西原重暉、母ろくの三男として誕生。	
明治 29	1896	13	家業の印刷所の設備近代化の失敗に伴い中学進学を断念。工手学校へ。	1894 日清戦争
明治 31	1898	15	工手学校土木科卒業後、埼玉県助手、土木課勤務。利根川河川測量に従事。	
明治 34	1901	18	内務省土木局製図課勤務。 京橋メソジスト教会福音会英語学校夜間部に入る。(4年間在席)	
明治 37	1904	21	東京外国語学校英語専修科2年に編入、1年間で卒業。	1904 日露戦争
明治 40	1907	24	朝鮮総督府技手、釜山水道建設事務所勤務。	
明治 42	1909	26	万寿と結婚。	
大正 1	1912	29	東京市技手、土木局製図課勤務(東京市下水改良事務所)。	
大正 3	1914	31	原宿伊庭邸の衛生工事と浄化槽を施工。	1914 第一次世界大戦
大正 6	1917	34	合資会社建材社の客員として東京海上第一期ビルディングの衛生工事に携わり、我が国初のビル用大型浄化槽を施工する。 渋谷自宅に独立。西原衛生工業所を創立。	
大正 12	1923	40	馬込に住居を移転。付近の畑地に振りまかれる生汚物を目の当たりにし、汲み取り尿尿の科学的処理の急務を痛感し我が国初の「尿尿消化処理法」の実験を開始。	1923 関東大震災
昭和 2	1927	44	欧米視察旅行。米国・英国・ドイツで下水処分場、堆肥処理場等を見学。	
昭和 3	1928	45	自宅邸内に尿尿処理実験設備を設置し実験を行う。(昭和10年に実験成功)	1929 世界恐慌
昭和 13	1938	55	神戸市に我が国初の本格的な尿尿併合消化実験装置を設置したが、大東亜戦争勃発のため実験装置も爆破された。	1939 第二次世界大戦
昭和 20	1945	62	内閣戦時研究員(尿尿処理)となる。	1945 終戦
昭和 21	1946	63	連合軍総司令部技術部嘱託(汚水処理)となる。	
昭和 23	1948	65	西原衛生工業所を株式会社に改組。代表取締役社長に就任。	
昭和 29	1954	71	芝浦に西原衛生工業所新社屋落成。(前川国男氏設計)	
昭和 30	1955	72	衛生工業界に尽くし、汚水汚物処理装置を完成した功により、黄綬褒章を授与される。	
昭和 31	1956	73	財団法人日本環境衛生協会理事に就任。(終身) 室蘭市し尿処理場完成。ネオ加温式促進消化法第1号機。 厚生大臣より保健文化賞受賞。	
昭和 32	1957	74	株式会社西原環境衛生研究所を設立。代表取締役社長に就任。	
昭和 34	1959	76	東京で開催された国連WHOセミナーの特別講師ハーバード大学フェア教授や国連スタッフが本社屋を訪問。技術論文に関心を示されセミナー出席者全員に配布される。 フェア教授より添書と共に著書「Sewage Treatment」を送られ終生の喜びとなる。	
昭和 35	1960	77	軽井沢に「いするの家」(International Student's Resort Home)を開館。開発途上国留学生のための憩いの場として提供。 東南アジア視察旅行を行う。	
昭和 37	1962	79	ネオ浄化そう工業株式会社(現・西原ネオ)を設立。	
昭和 38	1963	80	2回目の欧米視察旅行に妻と四女光薫洋子を伴い出発。 訪問先: デンマーク・スイス・ドイツ・オランダ・フランス・イギリス・アメリカ	
昭和 40	1965	82	4月、勲四等瑞宝章を授与される。 12月14日、老衰のため永眠。享年82歳。	1964 東京オリンピック



www.nishihara-neo.co.jp

ご連絡・お問い合わせ先

株式会社西原ネオ 本社 管理部 総務人事グループ

〒108-0023 東京都港区芝浦3-6-18 西原ビル2階 TEL.03-3452-4441

toiawase@nishihara-neo.co.jp